平成２８年度　第１回印西市地域福祉計画策定委員会　会議録

日　　時	平成２８年８月２６日（金）午後２時００分～
場　　所	印西市役所　農業委員会会議室
出　席　者	石井委員 橋詰委員 堀川委員 松藤委員 渡邊委員 本田委員 山下委員 小松委員 織原委員 山口委員
事　務　局	社会福祉課

１　開会

２　議事

（１）印西市地域福祉に関するアンケート調査結果について

（２）アンケート調査から見える印西市地域福祉の課題について

（３）その他

３　その他

４　閉会

１．開会
（傍聴人の入庁確認）
（議事録署名委員の指名、橋詰委員、松藤委員）

２．議事
事務局Ａ：それでは議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、印西市地域福祉計画策定委員会設置要綱の規定により、委員長に司会をお願いいたします。

（１）印西市地域福祉に関するアンケート調査結果について
（２）アンケート調査から見える印西市地域福祉の課題について
委員長：それでは、議事に入ります。次第２（１）印西市地域福祉に関するアンケート調査結果について、及び（２）アンケート調査から見える印西市地域福祉の課題について事務局から説明をお願いします。
事務局Ａ：（印西市地域福祉に関するアンケート調査結果及びアンケート調査から見える印西市地域福祉の課題について説明）
委員長：印西市の地域福祉の現状や課題について説明がありました。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。
委員Ａ：アンケート調査結果を見ると、年齢別で見ると印西市に愛着がある人は年配の人が多いということでした。翻すと、長く住んでいるから地域に愛着があるということに思えます。ニュータウン地区は入居が始まって20年から25年くらいです。その方たちが60歳くらいになっているとすると、愛着がわくまでもう少し時間がかかるかと思います。愛着は、長い期間住んでわくものです。ですから、地域の人口構成が重要ではないかと思います。ずっと前から住んでおられる方が多い地域だと、愛着がないほうがおかしいと思います。居住期間が短い人に愛着を持ってくださいといっても、なかなか醸成できないと思います。そのあたりの特性を調べていただきたいと思います。
46ページのポートフォリオ分析で、Ｉタイプのこれから重要となる事項があがっており、情報交換、情報充実、相互支援の充実、福祉教育の充実という課題があります。20ページをみると、何かあったときの相談相手の分析があり、これはほとんど家族になっています。核となる人たちが家族、親類、友人、知人に多いのであることから、課題についてはこのあたりから充実していけばよいのではないのでしょうか。ただ単に、広域で教育する、情報をばらまくというのでは浸透しないと思います。重点的にどこに情報を流していくのか、どうしたら確実に皆に広がっていくのかを考えると、情報を伝達する方法、情報の有効性も考えていったほうがよいと思います。
事務局Ａ：ご指摘の通り、居住期間と愛着の度合いは比例してくると思います。それを継続的にみていくとともに、今回のアンケート調査では居住期間の項目もありますので、そこも分析するのもひとつの方法であると感じました。
また、相談者が親、友人、知人といった近しい人になっていることから、身近な方たちの困りごと相談に的確に対応できるよう、身近な問題の情報等が必要なところに伝わるよう努めていきたいと思います。
事務局Ｂ：付け加えますと、居住年数と愛着の度合いについては、居住年数が短くても愛着を持てるような施策をうつ必要もあるかと思っています。

委員Ａ：「ボランティア活動の活性化」とありますが、東京オリンピックでボランティアの募集に対しての大学教授の意見が新聞に載っていました。東京オリンピックのボランティアは大変レベルが高い人のボランティア活動であり、採用基準が非常に高くなっています。それをボランティアでするということですが、教授が言われるには、高いレベルを要求していてボランティアで来る人がいるのだろうかということでした。それは何を意味するかというと、ボランティア活動は、あくまでも責任もそれなりに、活動の範囲もそれなりにという、活動の範囲が大したものでなくてもよいというものだと思います。ボランティアの活性化もよいですが、何らかのメリットも必要ではないかと思います。大学教授の言われていることに私も賛成です。ボランティアでも、まったくのボランティアもいかがなものかと思います。何らかの見返りが考えられないと難しいと思います。

事務局Ａ：アンケートには、ボランティア活動について、いくつかの項目を入れています。回答としては、「お誘いがあれば」や「ご自身の活動を活性化するために」「興味のある内容である」「意欲を刺激するメニューが用意されていれば」また、「ご自身の生活スタイルに合わせてできる時間でできる内容」という回答もありました。専門性の高いハイレベルのものではなく、身近なところでの支えあい、助け合いなど、市民の皆様が気軽に活動に参加できる事も提案していく必要もあると思います。
実際に社会福祉協議会ではどうですか。

委員Ｋ：まず、この結果を見た中で、社会福祉協議会ができていないことがあります。地域福祉計画は、行政が地域福祉をどのように進めていくのかという計画です。社会福祉協議会では地域福祉活動をどのように進めていくかという計画です。現状は書いてあるとおりですが、これを市の事業評価としてよいのでしょうか。この表を見ると、「できている」という評価が大変多いです。事業は行政の各課で分担してやっていて、計画書にも書いてあります。私からすれば、あまりよくない面もあります。社会福祉協議会の方は、収支報告があります。この分析・課題整理の中で感じたことは、地域福祉計画とは、地域福祉をどのように行政が進めていくのか、市民に対してどのように舵取りをしていくのかという計画だと思います。それにはやはり、市民がやりやすいように、活動する場所、必要経費をどの程度出せるのか、教育機関・施設の活用などについての評価が抜けていると思います。そういったことをどこかに書いておくほうがよいと思います。

事務局Ｂ：ただいまご指摘いただいた現状と課題ですが、評価は実施評価になっています。やったかどうかの評価です。本来は、実施してどのような効果があったのかを評価すべきだと思っています。前計画について評価していますが、第三次計画以降では、実施評価ではなく、成果をどのように評価するのかを検討したいと思っています。

委員Ｋ：私は施策の評価についても、各課でどのようなことができたかも書く必要があるのではないかと思います。各課でできない部分もありました。やり方を変えたほうがよいという部分もありました。それも書き入れたほうがよいのかと思います。そうすれば課題がもっと広まると思います。どうすれば地域の人がやりやすいのかというと、だいたい場所とお金と行政の制約でストップしてしまいます。活動している人のご意見を伺いたいと思います。

委員Ｅ：今のお話に関連しますが、印西市に昔から住んでいる人たち、ニュータウンといってももう30年の歴史がありますが、その地区の人もいれば、また人口が増えているということで来て間もない人が中心の地域もあります。それぞれの地区で課題が違います。印西市としての課題よりも地域の課題をまとめていかないと、総花的な

違和感のあるものになってしまう気がします。
また、分析をみると、小林地区は「Ｃ」の割合が高いと出ています。各地区でそれぞれ課題があると思います。この地区はこのような特徴があったという中で、その地区の対策が見えてくるような気がします。その辺りの分析もお願いしたいです。

事務局Ｂ：今回のアンケートについては、地域別、年代別で分析できます。各支部社会福祉協議会に対して、８つに分類して地区別の分析をして議論をしているところです。今回については、全体の集計結果しか配布しておりませんが、地区別の集計もしておりますので、その点も反映したいと思います。

委員Ａ：アンケートの母集団は3,000通で、回収数は1,500通程度です。ということは半分程度しか返ってきていないと思います。印西市は８万人、９万人の人がいます。それに対して1,500通の母集団で全体を評価するというのは無理があると思います。地域で考え方も住まい方も非常に違います。中には江戸時代から住んでいる人もいます。そのような歴史を持った方と、ニュータウンの方などもう少し細かく分析したほうがよいと思います。

事務局Ｂ：今回の統計については、統計法の中から誤差などを分析して、当市の場合1,500通ほどあれば誤差前後３パーセントくらいでいけるということで3,000人を抽出したものです。また、地区についても各地区にバランスよく配分しています。あくまで、結果として回答があるかないかという話になりますが、アンケートは各地区にバランスよく配布しているつもりです。結果として、回収率は51パーセントでしたが、前回のアンケートは34パーセントでした。ある程度高めの回答率であったという認識を持っています。先ほど言われたように、今までの市の地域別の構成、居住年数、人口形態は個々で違ってきますので、もっと多くの方々に回答いただいて分析できれば詳細は判明したかもしれません。

委員長：前回の23年度調査のときは800通あまりでしたか。

事務局Ｂ：3,000通配布して、800通程度の回答でした。34パーセント程度の回収率でした。

委員長：前回よりも回収率はよいということですか。

事務局Ｂ：はい。前回より20パーセントほど上昇していますが、まだ半数程度は回答していないということになります。

委員Ａ：その回答率についても、1,500通の回答があっても、100パーセント回答があった地区もあります。ニュータウンは10パーセント程度しか返ってきていません。回答があった人だけで統計を取ると偏った結果になると思います。アンケートに真剣に回答する人と、適当に回答する人でも、誤差３パーセントで収まるのですか。

事務局Ｂ：これは統計法上の話で全員回答した場合にどうかということであって、また、今回はすべてのデータが入っています。今回はあくまで全体の結果を見ています。また、地区別にも集計できます。今回は全体としての回答結果をつくっただけで、各地区の集計も出せます。

委員Ａ：アンケートを配布して、分析するデータがあって、そのデータを元に何がわかって、それを有効に活用しないといけません。データを取るだけで終わってしまうのはもったいないと思います。費用をかけた以上、細かい分析が必要だと思います。

事務局Ｂ：ご意見ありがとうございます。せっかくアンケートを行って、1,500名の方のご意見がありましたので、それに細かく目を配って、分析して、計画に反映したいと思います。

委員Ｈ：話を戻して申し訳ありませんが、目標１で書いてあるボランティアセンターについてお聞きします。課題に「ボランティアセンターの機能の強化ができていない」、

「職員体制を厚くし、ボランティアセンター機能を強化していくことが必要」とあります。これは、ボランティアセンターが基準になると思います。印西市が今年市制20周年ですが、印西市ができたとき、総合福祉センターにボランティアセンターができました。そのとき、私はコーディネーターとして仕事を始めました。当初はきちんとした場所があって、コーディネーターが常駐していました。しかし、現在はそれがなくなってしまいました。結局、こういった場所を維持するには、予算と場所が一番必要だと思います。せっかくボランティアセンターができて、部屋もあったのに、それがなくなってしまいました。どこにどういった責任があるのかわかりませんが、やはりボランティア活動をするにはボランティアセンターが必要だと思います。ある程度市からも予算を出していかないとやっていけないと思います。どこの市町村にもボランティアセンターがあります。印西市にボランティアセンターができたとき、ゆくゆくはボランティアセンターとして独立したいという話もしていました。それがいつの間にかなくなってしまったようなのです。社会福祉協議会が兼ねてやっておられると思いますが、それは兼業でやっているのであって、ボランティアのことだけではないと思います。大勢のボランティアがいる中で把握するには、ボランティアセンターが必要だと思います。資料にも書いてありますが、職員体制を厚くしてボランティアセンター機能を高めていくことが必要だと思います。

委員長：駅前に市民活動支援センターがあります。そことボランティアセンターとは一緒になりえないのでしょうか。

委員Ｋ：その件に関しては、全国的な流れとして、市民活動センター・ボランティアセンターが１つの組織になっているところもたくさんあります。兵庫県もそうなっています。ただ、印西市の場合、社会福祉協議会にボランティアセンターをつくりました。当時は、市民活動より福祉的なボランティア活動から出発しています。その捉え方として、印西の場合は福祉的なボランティアという意識が先にできてきました。そして、人口が増え、団塊世代の方たちの知識を持っている方が活動の幅を広げ、自分たちの活動をしていこうということで、ＮＰＯの法律もできたこともあいまって、いろいろな活動がしやすい環境となりました。そこで、市として「市民活動推進課」をつくり、行政は市民活動については行政が主体でやっていくということで、その場所として駅前に市民活動支援センターをつくったのです。そのため、出発点が違っています。どこでもそうですが、分野の壁を取り除いて、どの分野にも広がってきています。そのため、福祉と市民活動と社会福祉協議会のボランティアは、区別はしていますが、重複して登録して活動しています。その活動内容が福祉的なものであれば福祉、市民活動であれば市民活動ですが、例えばボランティア保険に入っておけば何かあったときに助かるから、社会福祉協議会のボランティアに入っておくというように、メリットも考えながら選んでいるということです。その連携は大事なことだと思います。それが合体できるかというと、市民活動推進課と社会福祉協議会でいっしょにやろうという働きかけをしていくことも将来的にありえますが、まだその段階には至っていません。ただ、連携は必要なので、今年は「夏休み子ども体験」というイベントを、活動支援センターと社会福祉協議会の共催でしています。登録する方も、どちらでもよいといった連携はしています。現状はそのようなことで、将来的には一緒にすることも方法の１つです。そういったことを、５年間の計画に盛り込むこともありうると思います。

委員長：せっかく駅前に市民活動支援センターができています。社会福祉協議会と市民活動支援センターに重複して登録していますが、それは違うと思います。同じボランティアをしながら、重複して登録している。そういったことも、何らかの形を整えた方法、あるいは社会福祉協議会の中にきちんと事務局を持つなど、充実していくことも必要だと私自身も感じています。

事務局Ｂ：確かに、傍から見ると縦割りになっていると感じます。これから進めていく中で、縦割りではない、横串を刺すような政策が必要だと思います。地域福祉の考え方が、行政の縦割りを横から刺すようなことをしてもよいと思います。これから関係課とも調整しながら、可能な範囲で計画に踏み込むのであれば検討したいと思います。

委員Ｈ：以前、ボランティアセンターがあったときは、必ずコーディネーターがおりました。そうすると、ボランティアの方がセンターに寄ってくれました。ボランティアの集まる場所として必ず寄ってくれて、ボランティア同士で話しあったり、知り合いになったりしていました。ボランティア同士が知り合うのも大変よいと思いますし、市民活動支援センターと合同でやっていくことも必要になると思います。ただ、ボランティアセンターがあり、そこに行けばいつでもお茶でも飲めるといったような場所があればよいと思います。私はふれあい会食もやっていますが、皆さん集まって、食事をつくりながらおしゃべりするということにしています。ボランティアをやっているけど、ボランティアをされているという形もあります。そういった場所があるとよいと思っていました。

委員長：確かに部屋があるのはよいと思います。

委員Ｈ：以前はボランティアセンターにお願いして、センターに詰めておりました。そうするとボランティアの方が来てくださっていたのです。予算などいろいろな事情があると思いますので、何がよいかはわかりませんが、退行していると思います。

委員Ｅ：ボランティアを広めたいと思いますが、ボランティアというとどうしても高齢者や障がいのある方の介護、支援というイメージがあります。私は地域で同年代の人たちと趣味で集まる機会がありますが、人材がたくさんいます。現役を引退して半ば遊んでいる人たち、海外で30年、40年と勤務してきた人など、いろいろな人たちが遊んでいます。その中で、ボランティアをしませんかと言っても、その人たちにとってはあまり魅力がありません。もっと人材を広く募るために、このような事ができる人がいないかという形で広げていく必要があると思います。印西市にはレベルの高い人、貴重な経験をしてきた人がたくさんいます。その人たちの活用が大事になると思います。

事務局Ｂ：ご指摘の通り、いろいろな方が市内にはいらっしゃいます。それをどのように発掘し、活用するか。知り合いが知り合いになって広がっていくことが大切だと思います。

委員Ａ：私もボランティアをやっていたことがあります。確かに、いろいろなノウハウやテクニックを持っておられる方もいます。なぜそれが広がっていかないのかというと、その人が活躍してきた華々しい栄光があるのです。ボランティアをやるのはよいのですが、なんとなく物足りないということです。ボランティアはボランティアでよいのですが、そのモチベーションがないとなかなか難しいと思います。例えば、牧の原のショッピングモールは空きがあります。広大な敷地に鳴り物入りでできたのに、お店ができてはなくなっている状況です。その辺りの魅力がないと思います。そういった施設を借りることもできると思います。東大寺の大仏に人が集まるのは

大きいからです。小さな仏像を見てもつまらないのです。面白いから、大きなものがあるから人が集まると思います。ですから、小さくやっていてもダメだと思います。何かすごいものができたということを聞いて、行ってみれば幼児から高齢者まで楽しめる、皆が楽しめるようにしないといけません。ゆりかごから墓場まででではないですが、人の一生を俯瞰するような、生まれてから死ぬまで安心していられるような何かがあればよいと思います。

委員Ｋ：福祉活動に関わっている方は、人がいない、担い手がいないと話されます。それで悩んでいる人が多いです。でも、人はたくさんいます。きっかけづくりが大事だと思います。正解はないのですが、きっかけづくりのポイント、羅針盤のようなものです。空き家、空き店舗を借りるなど、場づくり、人のつながり、資金といったものは、どうしても市に頼る部分があると思います。どうしたらきっかけになるのか、中にはちょっとしたことがきっかけになる人もいます。皆さんも、そういったことで悩んでおられると思います。

委員長：ほかに何かご意見はありますか。

委員Ｋ：私は、５年間の中で社会福祉、地域福祉の環境が大変変わってきています。その中で、制度的、法律的なものを調べてまとめてきましので、お配りします。
地域福祉を取り巻く制度は頻繁に変わっています。
（追加資料について説明）

事務局Ｂ：様々な制度についても、地域福祉を推進していく中で、今後計画をつくっていく中で、この視点を盛り込んで行く必要があると思います。

委員長：地域福祉計画は横断的なものですので、こういったことも出てくると思います。

（３）その他

委員長：事務局から何かありますか。

３．その他

事務局Ａ：アンケート結果分析、事業分析、民生委員へのアンケート調査とともに地区支部社会福祉協議会の皆さんからもご意見を頂く予定です。それらを反映させながら、計画の骨子案を10月中旬にはつくり上げたいと思います。それを踏まえて、10月中旬くらいに会議を予定したいと思います。詳しい日程は、早めにお知らせしたいと思います。

委員長：以上をもちまして、印西市地域福祉計画策定委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

４．閉会

以　上